

展示室 1 イギリスの美術名品選



J・M・W・ターナー
「カンバーランド州のコールダー・ブリッジ」

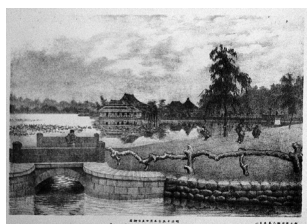
夏目漱石の『坊っちゃん』（明治 39 年、1906 年）のなかには、次のようなくだりがあります。「あの松を見給え、幹が真直で、上が傘のように開いてターナーの画にありそうだね」と赤シャツが野だにいうと、野だは「全くターナーですね。どうもあの曲り具合ったらありませんね。ターナーそっくりですよ」と心得顔である。

ターナーという画家を『坊っちゃん』で知った人も多いのではないのでしょうか。この小説が書かれた 20 世紀初頭には、小説だけでなく、文学書をはじめ、さまざまな雑誌でイギリス美術が日本に紹介されていました。

イギリス美術の特徴として挙げられるのは、貴族などを描いた肖像画が盛んに描かれたことです。そして、19 世紀には、ターナー、コンスタブルの 2 大画家が風景画の隆盛に貢献し、19 世紀後半には、ラファエル前派の画家らが描いた象徴的な作品が人気を博しました。

| 作者名 | 作品名 | 制作年 | 技法・材質 |
|------------------------|-----------------------|-----------|-----------------|
| アレクサンダー・カズンズ | 川岸に神殿のある風景 | | 水彩・紙 |
| ジョン・ロバート・カズンズ | サヴォワ地方、サランシュ附近のアルプス溪谷 | | 水彩・紙 |
| ポール・サンドビー | ウォーリック城シーザー塔 | 1778-82 | 水彩、インク・紙 |
| トマス・ローランドソン | ヘント付近、ローエン駅に着く馬車 | | 水彩・紙 |
| トマス・ゲインズボロ | 牧夫と牛のいる森の風景 | c. 1758 | 鉛筆・紙 |
| トマス・ゲインズボロ | 荷馬車のいる丘陵地帯の森の風景 | c.1745-46 | 油彩・キャンバス |
| リチャード・ウィルソン | キケロの別荘 | | 油彩・キャンバス |
| ウィリアム・ホガース | サミュエル・マーティンの肖像 | c.1758-60 | 油彩・キャンバス |
| サー・ジョシュア・レイノルズ | エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像 | 1777 | 油彩・キャンバス |
| ジョン・コンスタブル | デダムの谷 | 1802 | 油彩・紙、キャンバス |
| ジョン・クローム | ヘレスドンの眺め | c.1807 | 油彩・キャンバス |
| ジョン・マーティン | フレッシュウォーター・ベイ | c.1815 | 油彩・キャンバス |
| トマス・ガーティン | エクセター大聖堂 | c.1798 | 水彩・紙 |
| ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー | カンバーランド州のコールダー・ブリッジ | 1810 | 油彩・キャンバス |
| ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー | コニストンの荒地 | c.1797 | 水彩、鉛筆・紙 |
| ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー | サン・ゴータル峠の下り道 | 1848 | 水彩・紙 |
| ジョン・ラスキン | オーヴェルニュの丘 | | 鉛筆、ホワイトボディカラー・紙 |
| サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ | アヴァロンにおけるアーサー王の眠り | 1894 | グワッシュ・紙 |
| サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ | キリストの昇天 | 1875 | チョーク、墨・紙 |
| サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ | フローラ | 1868-98 | 油彩・キャンバス |
| ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス | フローラ | c.1914 | 油彩・キャンバス |

展示室 2 洋画事始め



亀井至一「東京不忍弁天景」

近代の始まり、幕末から明治にかけて、日本国内に流入した西洋文明 — 美術の分野でも、銅版画や石版画、写真、油彩画が相次いで伝えられ、ものの見方や表現方法、画材などに関心をもち、新しい技術の獲得を試みる画家があらわれました。幕末に来日したワグマンに師事した高橋由一、横浜で西洋風な描写を独学した五姓田芳柳、そのもとで学んだ山本芳翠、写真家・横山松三郎に師事した亀井至一、竹二郎兄弟、日本初の美術学校といえる工部美術学校で学んだ浅井忠一。

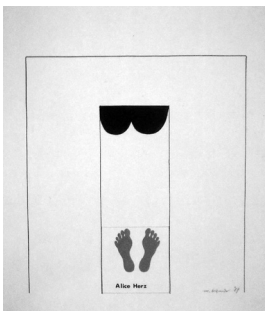
ここでは、日本近代美術黎明期の油彩画作品を中心に、洋画家が描いたスケッチや版画作品をあわせてご覧いただきます。

| 作者名 | 作品名 | 制作年 | 技法・材質 |
|-------------|--|------------------|------------|
| チャールズ・ワーグマン | 西洋紳士スケッチの図 | 1870年代 | 油彩・スケッチボード |
| 高橋由一 | 風景（鳥海山） | 1880年代 | 油彩・キャンバス |
| 亀井竹二郎 | 〈石版『懐古東海道五十三駅真景』油彩原画〉より9点 川崎駅 六合川眺望、神奈川駅、戸塚駅、大磯駅 海浜晴景、興津駅 清見寺三保松原遠望 島田駅、舞阪駅 自渡口望荒井、四日市駅 燈明台、関駅 地藏堂 | 1877-78(明治10-11) | 油彩・紙 |
| 山本芳翠 | 園田銚像 | 1885(明治18) | 油彩・キャンバス |
| 浅井忠 | 収穫 | 1893(明治26) | 油彩・紙、板 |
| 五百城文哉 | 真如堂図 | 1897(明治30) | 油彩・紙 |
| 原撫松 | 横山孫一郎像 | 1899(明治32) | 油彩・キャンバス |
| 野崎華年 | 富士 | 1907(明治40) | 油彩・キャンバス |
| 諫山麗吉 | 甲州猿橋 | | 油彩・キャンバス |
| 伊藤快彦 | 夏の静物 | | 油彩・板 |
| 五姓田芳柳 | 六美人図のうち2点 | | 水彩・絹 |
| 内田九一 | 大日本帝国両陛下御尊影 | 1877(明治10) | 写真 |
| 結城正明 | 大日本帝国両陛下御尊影 | (明治10年代頃) | 銅版・紙 |
| エドアルド・キヨソネ | 岩倉具視公肖像 | 1889(明治22) | 銅版・紙 |
| 太田節次(発行) | 貴顕御尊影 | 1900(明治33) | 石版・紙 |
| 田中良三 | 大元帥陛下御肖像 | 1897(明治30) | 石版・紙 |
| 岡村政子(推定) | 板垣伯之肖像 | 1891(明治24) | 石版・紙 |
| 和田英作 | 昭憲皇太后像 | 1911(明治44) | 石版・紙 |
| 町田信次郎 | 美人園 其一 雑妓の歌舞 | 1896(明治29) | 石版・紙 |
| 波々伯部繁 | 芸妓競 | 1893(明治26) | 石版・紙 |
| 原撫松 | 西洋紳士像 | | 鉛筆・紙 |

(亀井至一・竹二郎兄弟)

| | | | |
|--------|-----------------------------|-----------------|-------------------------|
| 亀井至一 | 『観古図説 陶器之部』巻一、三、四 | 1876(明治9) | 石版、手彩色、一部卵白引き・紙/本 |
| | 東京下谷芸妓小幾 | 1883(明治16) | 石版、手彩色・紙 |
| | 東京不忍弁天景 | 1882(明治15) | 石版・紙 |
| (亀井至一) | 亀井家伝来資料からスケッチブック5点、油彩スケッチ2点 | | 亀井よし子氏寄贈 |
| (亀井至一) | 亀井家伝来資料から油彩・水彩スケッチ13点 | | 佐藤忠雄氏、英雄氏、文雄氏、芳雄氏、信雄氏寄贈 |
| 亀井至一 | 東京上野之景 | 1874(明治7) | 油彩・キャンバス 寄託作品 |
| 亀井竹二郎 | 蜷川与志肖像 | 1877(明治10) | 油彩・キャンバス 寄託作品 |
| 亀井竹二郎 | 大和国龍田川景 | 1876-78(明治9-11) | 油彩・紙 寄託作品 |

展示室3 美術と社会



鎌田正蔵
「アリス・ハーズ夫人に捧ぐ1」

社会の中であって作品が生まれる以上、美術と社会との関わりは非常に重要な問題です。特に戦後日本において、美術を表現手段として自らを社会に投企する姿勢は、ひとつの典型でもあります。

今回は、戦後の様々な問題に対して、芸術家たちがどのような表現で社会と関わってきたのかを考えます。例えば、ベトナム戦争に抗議して1965年に焼身自殺を図ったアリス・ハーズ夫人に捧げられた、鎌田正蔵の「アリス・ハーズ夫人に捧ぐ」シリーズ全25点があります。ここで鎌田は、その事件をもとに、領土・人権・戦争などについての様々な問題提起をし、見覚えのあるイメージを組み合わせることで鑑賞者との対話を生み出そうとしています。

| 作者名 | 作品名 | 制作年 | 技法・材質 |
|------|-----|------------|----------------|
| 浜田知明 | 首 | 1951(昭和26) | エッチング、アクアチント・紙 |
| 浜田知明 | 一隅 | 1956(昭和31) | エッチング、アクアチント・紙 |
| 中村 宏 | 島 | 1956(昭和31) | 水彩、墨、鉛筆、インク・紙 |

| 作者名 | 作品名 | 制作年 | 技法・形状 | |
|------|-------------------|--------------------|---------------------------|---------|
| 中村 宏 | 城 | 1956 (昭和 31) | 油彩・キャンバス | |
| 中村 宏 | 射殺 Aching | 1957 (昭和 32) | 油彩・キャンバス | |
| 石井茂雄 | 戒厳状態 I 暴力シリーズより | 1956 (昭和 31) | 油彩・キャンバス | |
| 鎌田正蔵 | アリス・ハーズ夫人に捧ぐ 1~25 | 1969-70 (昭和 44-45) | フェルトペン、アクリル、インスタントレタリング・紙 | 鎌田正蔵氏寄贈 |
| 鎌田正蔵 | 人類学入門・黄 | 1989 (平成元) | アクリル・キャンバス | |
| 鎌田正蔵 | 人類学入門・黒 | 1989 (平成元) | アクリル・キャンバス | |
| 鎌田正蔵 | 人類学入門・白 | 1989 (平成元) | アクリル・キャンバス | |
| 柳原義達 | 黒人の女 | 1956 (昭和 31) | ブロンズ | |
| 勝呂 忠 | 休む人 | 1955 (昭和 30) | 油彩・キャンバス | 勝呂忠氏寄贈 |
| 尾藤 豊 | 川口鋳物 | 1954 (昭和 29) | 油彩・キャンバス | |
| 鎌田正蔵 | 飢える人 | 1952 (昭和 27) | 油彩・キャンバス | 鎌田正蔵氏寄贈 |
| 佐藤昭一 | 夏季休業 (ガラス工場にて) | 1953 (昭和 28) | 油彩・紙 | |
| 佐藤昭一 | 食事 | 1952 (昭和 27) | 油彩・板 | 佐藤昭一氏寄贈 |

展示室 4 イギリスの版画



ロバート・ギピングス
「チューリップ」

郡山市立美術館は、イギリス版画の一大コレクションを所蔵しています。その極めて質の高い作品の数々はイギリス版画史のほとんどを網羅しています。

ビューイックが魅せた木口木版画の技、ターナーの細密描写や雄大な自然のパノラマ、神秘的で超現実的なブレイクの世界、ノリッジ派による風景画の数々、ホイットラーが描く庶民の生活、ピアズリーの独創的な挿絵、時代の息吹を感じさせる今世紀初頭の試みなど—今回は所蔵作品の中から、イギリス版画を代表する作品の数々をご覧ください。モノトーンが奏でる世界をお楽しみください。

| 作者名 | 作品名 | 制作年 | 技法・形状 |
|-------------------------|--|--------|------------------------|
| トマス・ビューイック | 野生の雌牛 | 1789 | 木口木版・紙 |
| トマス・ビューイック | 『四足獣概説』 | 1790 | 木口木版・紙/本 |
| ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー | 牧草地から仰ぎ見る城 (オークハンプトン) | 1808 | エッチング、アクアチント・紙 |
| ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー | ネッカー川対岸から見たハイデルベルク | 1846 | エッチング、ラインエングレーヴィング・紙 |
| ジョン・コンスタブル | 『イングランドの風景』より「真昼」 | 1830 | メゾチント・紙 |
| ジョン・コンスタブル | 虹、ソールズベリー大聖堂 | 1834-7 | メゾチント・紙 |
| ウィリアム・ブレイク | 『ヨブ記』挿絵より「天地創造」 | 1825 | ラインエングレーヴィング・紙 |
| ウィリアム・ブレイク | 『ダンテの神曲』より 「盗人たちの囊：六本足の蛇に襲われるアニコロ・ブルネレスキ」 | 1826-7 | ラインエングレーヴィング、ドライポイント・紙 |
| ジョン・マーティン | 光の創造 | 1825 | メゾチント・紙 |
| ジェームズ・ウォード | アドニス | 1823-4 | リトグラフ・紙 |
| サミュエル・パーマー | 孤高の塔 | 1879 | エッチング・紙 |
| ディエル兄弟 (刻) | 『ワーズワース詩集』 | 1859 | 木口木版・紙/本 |
| ジョン・クローム | ヘザーセット付近の道の風景 | 1812 頃 | エッチング・紙 |
| ジョン・セル・コットマン | 主教官邸の門、ノリッジ | | エッチング・紙 |
| ジェームズ・アボット・マクニール・ホイットラー | ラルエット坊や | 1859 | エッチング・紙 |
| ジェームズ・アボット・マクニール・ホイットラー | 渡し場 NO.2 | 1880 | エッチング、ドライポイント・紙 |
| オーブリー・ピアズリー | アリ・ババ | 1896 | ラインブロック・紙 |
| オーブリー・ピアズリー | 『イエローブック』第5巻表紙デザイン | 1895 | ラインブロック・紙 |
| エドワード・コーリー・バーン=ジョーンズ | 『ジェフリー・チョーサー作品集』 | 1896 | 木口木版・紙/本 |
| ポール・ナッシュ | 『イワン・ヴァジリエヴィッチ皇帝の歌』挿絵 | 1929 | 木口木版・紙/本 |
| エリック・ギル | 『四福音書』挿絵 | 1931 | 木口木版・紙 |
| ロバート・ギピングス | チューリップ | 1922 | 木口木版・紙 |

展示室4 クリストファー・ドレッサーと日本



クリストファー・ドレッサー
柳編み把手付きダブル・バスケット

スコットランドに生まれたクリストファー・ドレッサー（1834 - 1904）は、19世紀後半に英国でデザイナーとして活躍しました。1876（明治9）年、ドレッサーはロンドンのサウス・ケンジントン博物館が日本に寄贈した美術工芸品を携えて来日します。4ヶ月にわたる滞在期間中に、大久保利通ら明治政府の高官たちと交流し、また日本各地の美術工芸品の産地を訪問して、陶磁器や金属器などを研究しました。帰国後、ドレッサーは日本の美術工芸品の影響を自らのデザインに生かしつつ、ヨーロッパの伝統や従来の概念にとらわれない、斬新で独創的な製品を生み出しました。

| 作者名 | 作品名 | 制作年 | 技法・材質 |
|------------------|------------------|-----------|-------------------|
| クリストファー・ドレッサー | 色絵金彩竹梅文水差 | | 磁器 |
| クリストファー・ドレッサー | 染付鳥文壺 | | 磁器 |
| クリストファー・ドレッサー | 染付波濤文把手付鉢 | | 磁器 |
| クリストファー・ドレッサー | 緑釉サラダボウル（サーバー付き） | 1879-82 頃 | 陶器、金属、電気メッキ |
| クリストファー・ドレッサー | 黄緑釉花瓶 | 1879-82 頃 | 陶器 |
| クリストファー・ドレッサー | 黄釉竹節型小皿 | 1879-82 頃 | 陶器 |
| クリストファー・ドレッサー | 褐釉瓢箪型花瓶 | 1879-82 頃 | 陶器 |
| クリストファー・ドレッサー | 緑釉龍波濤文水差 | 1879-82 頃 | 陶器 |
| クリストファー・ドレッサー | 緑釉人物文扁壺 | 1879-82 頃 | 陶器 |
| クリストファー・ドレッサー | 緑釉蓮花刻文皿 | 1879-82 頃 | 陶器 |
| クリストファー・ドレッサー | 彩釉細首水差 | 1879-82 頃 | 陶器 |
| クリストファー・ドレッサー | 色絵蝶花模様瓢箪形壺 | 1892-95 頃 | 陶器 |
| クリストファー・ドレッサー | 色絵花鳥模様壺 | 1892-95 頃 | 陶器 |
| クリストファー・ドレッサー | 色絵花模様長皿 | 1886 | 陶器 |
| クリストファー・ドレッサー | ナイフとフォークのセット | | 金属、電気メッキ |
| クリストファー・ドレッサー | 色絵花模様大皿 | 1886 | 陶器 |
| クリストファー・ドレッサー | 柳編み把手付きダブル・バスケット | 1881 | 金属、電気メッキ |
| クリストファー・ドレッサー | 柳編み把手付きケトル | 1881 | 金属、電気メッキ |
| クリストファー・ドレッサー | トースト・ラック（アーチ型） | | 金属、電気メッキ |
| クリストファー・ドレッサー | レター・ラック&ブックエンド | | 金属、電気メッキ |
| クリストファー・ドレッサー | クラレット・ジャグ、黒檀把手 | | ガラス、金属、電気メッキ、黒檀把手 |
| クリストファー・ドレッサー | 蓋つきスープ入れ | | 金属、電気メッキ、黒檀把手 |
| クリストファー・ドレッサー | 六角型薬味入れセット | | ガラス、金属、電気メッキ |
| クリストファー・ドレッサー | 蓋付きバスケット、黒檀製把手 | | 金属、電気メッキ、黒檀把手 |
| クリストファー・ドレッサー | ケトルとスタンド | | 銅、真鍮、鍛鉄 |
| クリストファー・ドレッサー（著） | 『日本 ―その建築、美術、工芸』 | 1882 年刊 | 本 |

ロビー展示 彫刻・他

| 作者名 | 作品名 | 制作年 | 技法・材質 |
|-------------|----------------------|------------|-------------|
| ●1階 | | | |
| アントニー・ゴームリー | 量子雲X X III / 領域X III | 2000 | ステンレス、スチール棒 |
| 細川宗英 | 装飾古墳シリーズ9 | 1963(昭和38) | セメント |
| 笠置季男 | 躍進 | 1958(昭和33) | セメント |
| ●2階展示ロビー | | | |
| 佐藤潤四郎 | 陶器で仏足跡 1・2 / 石で仏足跡 | | 陶器 / 石 |
| 細川宗英 | 道元 | 1972(昭和47) | ブロンズ |
| 高田博厚 | アラン像 | 1932(昭和7) | ブロンズ |
| 堀内正和 | 顔 | 1955(昭和30) | 鉄・セメント |
| ●前庭 | | | |
| バリー・フラナガン | 野兎と鐘 | 1988 | ブロンズ |

細川明子氏寄贈

寄託作品